

令和8年度学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>○学習意欲の喚起を基軸とした教科横断的なカリキュラム・マネジメントに取組み、生きて働く知識・技能の習得及び学びに向かう力、思考力・判断力・表現力を育成する。</p>	<p>①生徒の学習意欲を高めるため、進路支援グループ学習の基盤となる問題発見・課題解決能力を育成する単元計画のもと、確かな学力を育成する。</p> <p>②デジタルコンテンツを使った学習を導入し、一人一台端末等を活用した個別最適な学びや生徒同士の協働的な学びをとおして学びに向かう力を育成する。</p>	<p>①生徒が授業の学びを自分事にするため、寒高アーツの活用を基軸に、すべての科目で授業改善と授業デザインの見直しを行う。また、学ぶ意義や目的を見出せない生徒も授業に参加できる工夫を行う。</p> <p>②マナベーションでの個別最適な学びの学習状況の共有や教員同士の情報交換を行い、各教科等の学習にも取り入れる。</p>	<p>①全職員が問題発見・課題解決能力を育成する単元計画を作成することができたか。また、生徒が授業の学びを自分事にできるようなテーマや学習内容の工夫に取り組んだか。</p> <p>②生徒が主体的に授業に取り組むことができる授業となったか。また、デジタル教材で得られた生徒の学習状況を教科指導に活用できたか。</p>
2	生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を醸成するとともに、安心して学校生活を送れるように生徒の心のサポートを行う。</p> <p>②生徒が自ら考え行動する活動を通じて、責任感や連帯感の醸成と達成感が得られるよう生徒会活動を充実させる。</p>	<p>①生徒が安心して学校生活を送り、自ら生活を律し、自己の感情や行動を統制する力の育成を支援する。また、家庭との意思疎通を図るため日常から情報発信を行う。</p> <p>②生徒の困り感に寄り添い、チームで生徒を支援していく体制づくりを進める。</p> <p>③委員会や学校行事を通して、生徒が他者と協働して成果を挙げることにより、自己肯定感が高まるようサポートする。</p>	<p>①日常的な声かけにより生徒とコミュニケーションを図ることで、生徒の変化に気づき、問題行動を予防できるよう組織的に指導・支援する。また、自転車の交通ルール順守についてキャンペーン等を強化する。</p> <p>②生徒の困り感に寄り添い、チームで生徒を支援していく体制づくりを進める。</p> <p>③定期的に実施している生徒会役員打合せに関係職員が参加し、状況に応じて裏方としてサポートする。</p>	<p>①遅刻・欠席・服装指導などの対応件数や改善率が改善されたか。また家庭・学校連絡システム（すぐる）を活用し、生徒指導・支援に関する情報を家庭に連絡したか。</p> <p>②教育相談会議をとおして、ケース会議を開催し、効果的な支援につなげることができたか。</p> <p>③活動した生徒の様子や委員会等の活動振り返り時に、達成感・満足感を得ている様子がうかがえたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	○社会的・職業的自立のために、生徒に自己の在り方生き方を考えさせ、望ましい勤労観や職業観を基盤として主体的に進路を選択する能力を育成し、生徒一人ひとりの進路実現につなげる。	①生徒が自己の進路に対して主体的に向き合い、卒業時には適切な進路決定ができるよう、各学年と協力して一人ひとりの勤労観・職業観を確立し、卒業時の進路未決定者数減少をめざす。 ②1・2年次から学校外での体験活動の意義と重要性と、生徒が実社会との接点を通じて自己の適性の理解が深まる機会であることを広報する。	①1・2年次では進路ガイダンスを軸に、進路意識を持たせられるよう自己の適性の理解、将来設計の具体化を図らせる。3年次では早期から二者面談で希望進路実現のための行程を確定させる。 ②1・2年生から、地区インターンシップや仕事のまなび場などの多様な体験の場を情報提供する。また、保護者にも情報が届くよう広報を工夫する。	①進路希望調査を実施し、生徒が主体的に自己の進路に向き合っているか。また、卒業時における進路未決定率を10%未満とすることができたか。 ②体験活動への参加率、活動参加回数が前年よりも増加したか。また、学校全体での体験活動の案内や働きかけが効果的に実施できたか。
4	地域等との協働	○寒川町唯一の高等学校として、寒川町や近隣地域、小中学校の期待に応え、地域に親しまれ、地域とともにある学校づくりを進める。	①本校に興味を持つ中学生や保護者、地域を対象に、本校の教育内容や魅力・特色を定期的に情報発信するとともに、地域との協働を進める。 ②HPやSNS等を活用し、本校の教育活動について、正確な情報を適切な時期に掲載する。	①本校で実施した教育活動を積極的に地域にも情報発信する。また、地域と連携した活動に取り組み、町や地域のニーズを把握する。 ②本校の様子を正確に情報発信できるよう、HPやSNSの内容を精査し、的確に更新する。	①地域や町と連携した活動や広報活動をとおして、潜在的・本質的に必要とされる本校のニーズを把握できたか。 ②閲覧しやすいHPに整理することができたか。また、SNSでの情報発信を定期的に行うことができたか。
5	学校管理 学校運営	○事故・不祥事防止を徹底し、地域から信頼される学校づくりに努め、持続可能な学校運営と生徒に寄り添った教育を継続するための「働き方改革」を推進する。	①業務の効率化の視点で、施設設備の管理や各グループの業務量を把握・調整し、持続可能な効率よい学校運営を図る。 ②「ちょっとのお節介」が言える風通しのよい職場環境を推進し、相互に事故・不祥事防止に取り組める関係性をつくる。	①業務の効率化の視点で、施設設備の管理や各グループの業務量を把握・調整し、持続可能な効率よい学校運営を図る。 ②「ちょっとのお節介」が言える風通しのよい職場環境を推進し、相互に事故・不祥事防止に取り組める関係性をつくる。	①年間の業務量が平均化して、効率のよい学校運営を進めることができたか。 ②職員が協働的な関係性づくりに意識的に取り組めたか。